

だれかと、つながる。

現代社会は、コロナ禍の影響やリモートワークの広がりにより、人と人との関わりが少なくなっているといわれています。2020年度の調査では、高齢男性の6人に1人が「2週間誰とも会話していない」と回答しています。日常的な「孤立」は、すぐそばにあるのかもしれませんが。

人と話す機会が少ない状態が続くと、体調の変化や困りごとにも気づきにくくなってしまふことがあります。ほんの少しの違和感も、誰かと関わることで見えてくる場合があります。

「インフォーマル」な関わり。



にっこり

人とのつながりには、医療や介護サービスのような「フォーマル」な関わりと、日常の中で自然に生まれる「インフォーマル」な関わりがあります。

たとえば、地域を回る配達員との何気ない会話や、近所でのあいさつ、買い物のやり取りなども、「インフォーマル」な関わりのひとつです。ほんの少しだけ意識してみると、日常の中にもさまざまな「つながり」があることに気づきます。



お喋り

施設でも、体操やカラオケ、雑談などを通じて、ボランティアの方々との関わりがあります。その中で、「今日は手が上がりにくいな」「いつもと違う様子があるな」といった、ちょっとした変化が見られることがあります。その変化は、もしかしたら身体面や精神面の変化のサインであることもあります。

つながりは、特別なものでなくてもかまいません。買い物に出かけてみる、地域の活動に少し顔を出してみる。そんな小さなきっかけが、誰かとのつながりへとつながっていきます。

「だれかと、つながる。」

ほんの少しだけ意識してみると、誰かとの何気ない会話のひとつも、大切に思えるかもしれません。



体操中

喜らめき銀河タイムス

きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

社会福祉法人 溪仁会 経営理念
一、安心・安全
二、信頼・満足
三、地域に貢献

ひとりと向きあう。



認知症カフェ・きらり活動レポ

定期開催2回目、テーマは「そもそも認知症って?」。認知症という言葉の由来や、なぜ「オレンジ」なのか、認知症は治るのか?などを和やかな雰囲気の中で学びました。

次回: 6月16日(火) 午前10時~。喜らめきの郷にて。

テーマ(仮): 認知症の人を支える“人としくみ”

申し込み不要(当日参加大歓迎!)・コーヒー代100円

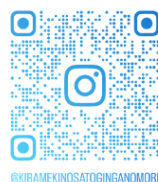
高齢者施設ではたらく人。

~その②看護師~

専門性 ★★★★★
判断力 ★★★★★
安心感 ★★★★★



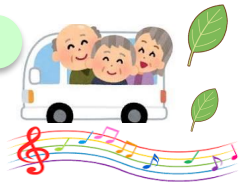
表情や仕草のちょっとした変化に、医療の視点で向き合う看護師。介護士や医師と連携しながら、安心して暮らせる日々を支えています。喜らめきの郷には、長く勤めている看護師が多くおります。





～デイサービスセンターの活動～

～期待できる効果～



デイサービス（通所介護）とは、要介護認定を受けた高齢者が、日帰りで施設（デイサービスセンター）に通い、食事、入浴、機能訓練（リハビリ）、レクリエーション等のサービスを受けられる介護保険サービス。サービス内容の活動ではどのようななどのような効果が期待できそうか下の写真を見ながら皆さんも想像をふくらませてみましょう？



作品の完成
⇒達成感！

記念撮影
⇒高揚感！

縫い物
⇒リハビリ効果！

職員の手伝い
⇒誰かの役に立つ

●**認知・精神面** /脳刺激・認知機能の維持。/抑うつ・不安・孤立感の軽減。/「役割」「誰かの役に立つ」感覚の回復。 ●**身体・生活面**/外出や活動意欲の向上。/フレイル・閉じこもり予防。/ADL・IADL 低下の予防。 ●**QOL・尊厳**/「自分らしさ」を保つ。/施設＝生活の場としての安心感形成。/等々。

当デイサービスセンターは、留寿都村の方・喜茂別町の方のご利用が可能です。地域を超えた交流により、新たな活動の効果も期待されます。



ありがとうが咲く日～母の日～



五月は連休が多く、多数の方が面会に来てくださいました。昔のお話に花が咲き、笑顔あふれるひとときを過ごされました。今後も皆様のお越しをお待ち申し上げます。



//見学随時募集中//